

トハ五國內協議ノ事ナリヤ正式會議若ハ其ノ他ノ會議ヲ指スモノナリヤ「商議ヲ開始シ得ル狀態ニ達シタル際」トハ如何ナル意味ニテ何人カ斯カル狀態ニ達セシムルモノナルヤ本件ハ現ニ「ロンドン」ニ於テ如何ナル進展ヲ見居ルモノナリヤ又英國政府ハ差當リ帝國政府ニ於テ如何ナル措置ヲ執ルコトヲ期待セラルル次第ナリヤト質問シタル處右諸點ハ何レモ重要ト思考スルニ付早速本國政府ニ電照スヘシトテ引取りタリ越テ十九日英國大使館員來省前記會議ノ際ニ於ケル質問ニ對シ英國政府カ日本政府ニ求メントスル協力ハ英米側ニ於テ「ヤードスチック」ヲ作成シ之ヲ日本政府ニ通達スル場合之ニ關スル日本政府ノ腹藏ナキ意見ヲ承知シ度ク又日本政府ニ於テモ今ヨリ豫メ右尺度ニ付充分ナル研究ヲ遂ケラレタル上別ニ御意見モアラハ提案アリタキ趣旨ナリ尙又眞ノ商議云々トハ英米側作成ノ尺度ヲ關係國ニ通達シ關係國トノ商議ヲ開始シ得ル狀態ニ達シタル場合ナリトノ説明ヲ爲シタリ

(註二) 五月十五日松平大使「チエムバレン」外相ニ會見シ「ギブスン」ノ聲明ニ關聯シ軍縮問題ニ關シ日、英米間從來ノ密接ナル關係ニ鑑ミ互ニ腹藏ナキ意見交換ノ必要ナルヲ述ヘタル上英米間ノ商議ニ於テ日本ヲ度外視シ英米間ニ定メタル事ヲ押付クル如キ事アリテハ問題ヲ紛糾セシムル虞アルニ付商議ノ模様ハ日本側ヘ充分ニ通報セラレタキ旨申入レタル處外相ハ「今回米國ノ提議ハ海軍力比較ノ標準決定上伸縮性ヲ有スルヲ以テ從來關係國間ニ存在セル困難ヲ除ク事ニ於テ頗ル有望ナリト思考ス而シテ英米間商議ノ目的ハ兩國間ニ橫ハル從來ノ困難ヲ除去スル爲ニシテ關係國ニ對スル「ルール」ヲ發見スル爲ニ非ス即チ英米間ノ比率ニ付テハ問題ナキモ海軍力比較ノ標準ニ付從來意見一致セサリシモノニシテ此點ニ付テ双方ノ案ヲ比較シテ妥協點ヲ見出サントスル趣意ナリ英米間ノ商議ニ於テ他國ニ對スル陰謀ヲ爲スカ如キ事ハ全然無キニ付日本政府ニ於テモ安心セラレタシ尙如何ナル形式ニ於テ商議ヲ開始スヘキヤハ未タ決定セサルモ自分ノ考ニテハ米國政府ノ希望ニ副ハサルヘカラスト思考ス」ト述ヘタリ

松平大使ハ更ニ「率直ニ云ヘハ日本ニ於テハ「ワシントン」條約ノ比率ニ付今日迄不滿ノモノアリ殊ニ其ノ比率ヲ其ノ儘他艦種ニ適用スル事ヲ押付ケラルル如キ事態ヲ心配シ居ル次第ナル」旨ヲ述ヘタル處外相ハ「自分ハ判然トハ申シ難スルモ比率ノ問題ニ付テハ「ジュネーヴ」會議ニ於テ「ブリッジマン」ハ幾多ノ讓歩ヲ日本ニ爲ス用意アリシ如ク記憶ス自分ハ米國ノ立場ニ付言ヒ得ル地位ニ非サルモ同國ノ新聞其他ニ現ハレタル調子ニ依レハ或ハ米國側ニテハ「ワシントン」條約比率ヲ他艦種ニモ適用スヘキモノト考ヘ居ルヤモ知レサルニ付本件ハ適當ノ機會ニ日本政府ヨリ米政府ニ對シ談合セラルル事然ルヘキカト存ス何レニセヨ英米間ノ商議ハ前述ノ通兩國間海軍力比較ノ標準ニ付會談スルモノニシテ他政府ノ比率問題ニハ觸レサル積リナリ」ト説明シ尙「軍縮問題ニ對スル日本ノ協調的態度ハ英國政府及海軍當局ニ於テ多シ居ル次第ニテ右商議ニ關シテハ日本政府ト聯絡ヲ取ルヘシ」ト言明シタリ

第四節 英米內交渉我方參加方ノ提議ニ關スル帝國政府回訓及帝國政府ノ對軍縮一般方針

帝國政府ハ前顯松平大使累次ノ請訓ニ接スルヤ事態ノ重要且機微ナルニ鑑ミ慎重考慮ノ結果六月二十九日左ノ通回訓セリ
(一) 英米間ノ妥協ヲ圖ルコトハ海軍々備縮少問題ノ成功ニ最モ緊要ナリト考フルカ故ニ英國側ニテ「ドーズ」大使ニ異議ナキニ於テハ我國トシテモ兩國ノ內協議ニ參加シ圓滿ナル解決ノ爲メ最善ノ努力ヲ試ミ同時ニ我カ見解ヲ開陳スルノ機會ヲ捉ヘ置クコトト致度ニ付「ドーズ」ニ對シテハ今後右ノ御含ヲ以テ應待アリ度ク情勢ニ依リテハ貴官ニ於テ調停ノ勞ヲ執ラルルコトハ差支ナシ尤モ左ノ諸點ニ付テハ常ニ充分ナル考慮ヲ拂ハレ度シ

(二) 英米ノ調停成立後ニ於テ我主張ノ實現ヲ圖ルコト頗ル困難ノ場合アルヘキニヨリ調停斡旋ヲ試ミラルルニ當リテハ常ニ我方ノ立場ヲ有利ニ展向セシムルコトニ留意アリ度シ

(三) 佛伊トノ關係ニ付充分考慮スルコトヲ要ス然レトモ爲ニ英米間ノ内協議ヲ實際上停頓セシムルカ如キ結果ヲ招來スルコトハ固ヨリ不本意トスル所ナルニ付英米間ノ調停ナル立場ヲ失ハサル限リ紛糾ヲ避クル爲機宜三國間ニテ商議ヲ進ムルハ已ムヲ得サル次第ナルヘシ

此ノ場合ニ於テモ佛伊ヲシテ無用ノ不安不快ヲ感セシメサル様留意スルヲ要ス

(四) 英米ノ懸隔セル主張ヲ調和スルコトハ相當難事ナルノミナラス初メヨリ調停ノ性質ヲ缺ケル案ヲ提出シ徒ニ英米ヲ失望セシムルカ如キハ當ニ情況ヲ紛糾セシメ我國トシテ意外ノ不利ナル立場ニ陥ル危險アリ仍テ兩國最近ノ真意ヲ知悉スルニアラサレハ調停の基礎案ノ作製ハ至難ナリ

(五) 必要ニ應シ佐藤公使加藤少將ノ來英ヲ求メラレ差支ナシ

前掲回訓ノ發送ト同時ニ帝國政府ハ下記對軍縮一般方針ヲ左ノ訓令ト共ニ松平大使ノ心組トシテ發送シタリ

『別紙海軍軍備制限ニ關スル帝國政府ノ方針二十八日閣議ニ於テ海軍大臣ヨリ説明ノ上其ノ承認ヲ經タリ右ハ我政府ノ一般方針ヲ示シタルモノニシテ直チニ之ヲ關係國トノ交渉ノ基礎トスル趣旨ニアラス本問題ニ對スル貴官ノ心組トシテ電報スルモノナルニ付帝國政府ノ確定方針トシテ突如之ヲ表明シ將來ノ商議ニ不利ヲ招クカ如キコトナキ様充分御留意アリ度表明ノ程度時機方法等ニ付テハ貴官ノ裁量ニ依ル次第ナルモ成ル可ク豫メ本大臣ニ稟請ノ上措置セラルルコトト致度シ

軍備制限ニ關スル帝國ノ方針

一、軍備制限ニ對スル帝國ノ態度

軍備ヲ縮少シ國民ノ負擔輕減ヲ計リ以テ世界平和ノ維持ニ寄與セントスル崇高ナル企圖ニ對シテハ帝國ハ眞摯ナル態度ヲ以テ列國ト協調スルニ努ムヘシ

雖然列國間ノ軍備制限ハ公正且合理的ナラサルヘカラス且又特殊ノ國情ニ在ル國家ニ對シテハ之カ國情ヲ充分考慮スヘ

キモノニシテ若シ夫レ國家自衛上安全確保ヲ期シ得ラレサル如キ縮少案ハ世界の軍備縮少ナル大事業ノ眞目的ヲ達成スル所以ニアラサルモノト認ム

二、帝國海軍軍備ノ目標

帝國海軍軍備ハ一ニ受動的ニ國家ノ自主獨立ヲ擁護スルヲ目的トシ素ヨリ何等侵攻の意圖ヲ有スルモノニアラス從テ自衛的作戰方針ノ要求ヲ充シ得ルト同時ニ吾國民生活必需資源ヲ海外ニ仰カサルヘカラサル特殊國情ニ鑑ミ須要ナル交通線ヲ維持確保スルニ必要ナル兵力ヲ保有スルヲ絕對必要トシ且之ヲ以テ足レリトスルモノナリ

而シテ右ノ目的ヲ達成スルニハ補助艦ニ關スル限リ世界最大海軍ニ對シ尠クモ七割程度ノ兵力ヲ必要ト認ム

三、制限方式

制限方式ノ決定ニ關シテハ制限目的ノ趣旨ニ合シ且簡明正確ニシテ實行容易ナルヲ期スルヲ要ス而シテ其ノ内容ハ多岐ニ互ルト雖其ノ主要點ヲ要約スレハ保有兵力量、比率及兵力ノ内容ノ三件ヲ協定スルコトニ歸着スヘシ

而シテ此等三件ハ各國特殊ノ國情ヲ參酌シ國家安全ノ平等ヲ期スルノ精神ヲ基調トシテ決定セラルヘキモノナリ

保有兵力量ニ關シテハ軍備制限ノ趣旨ニ基キ軍備ノ縮減ヲ期スルニ努メ苟モ擴張ニ互ル如キコトナキヲ要ス

比率ニ關シ帝國ハ量的不平等ヲ認ムルノ已ムヲ得サル現狀ニアルモ國家自衛平等ノ主義ニ則リ國防の平等ヲ期セントスルモノナリ

保有兵力ノ内容ニ關シテハ二十浬砲搭載巡洋艦以上ノ大艦ハ特ニ比率ヲ重視シ輕巡洋艦以下ノ小艦及潛水艦ニ於テハ自主的の所要量ヲ主トシテ考慮スヘキモノナリ海軍力測定ノ尺度ハ合理的の且簡單ナルヲ可トス備砲口徑速力其他ノ能力要素ヲ加味スルツ案ハ一見妥當ナル如クニシテ實ハ合理的ナラス且之カ實際ノ適用ハ頗ル困難不確實ナリ

結局排水量若ハ排水量ニ艦齡ヲ加味セルモノヲ以テ勢力比較ノ尺度トスルヲ最妥當ナリトスルニ歸スヘシ

四、海軍軍備制限問題ハ其ノ性質上二、三強大國ノミニテ討議協定スルハ妥當ナラス會議ハ直接利害關係ヲ有スル主要海